

# 図書館だより

埼玉県立図書館

第 44 号

平成 2 年 7 月 1 日

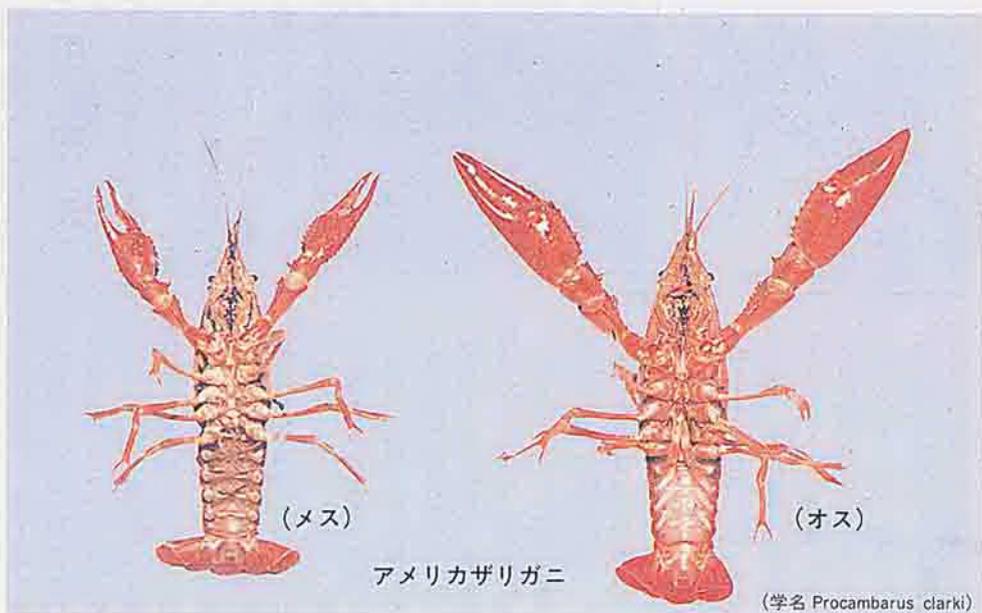
編集 埼玉県立図書館  
広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館  
館長 須藤和敬  
浦和市高砂3-1-22  
電話 048(829)2821

## 埼玉の小さな生き物たち

(主な内容)

- 帰化動物の盛衰の歴史…………… (1)
- 埼玉の小さな生き物たち…………… (2~3)
- 随筆・ミドリシジミを追って…………… (4)
- 本のひろば…………… (5~6)
- 施設紹介 らいぶらりい…………… (7)
- 観察地案内…………… (8)



(須甲鉄也氏 提供)

## 帰化動物の盛衰の歴史

須 甲 鉄 也

昭和の初年、食用蛙の餌としてアメリカから輸入されたザリガニが、その後著しく繁殖し、日本の帰化動物の王者となったことは周知の通りである。この動物は稲の芽をはさみで切ったり、田圃に穴をあけて水を流したりするなどの害を及ぼすので、第一号の害虫として駆除の対象となった。ところが近年急激に減少し、最近では関東平野の中心部ではほとんど姿を消してしまった。この原因として当然最近の流水の化学的汚染の進行があるが、当動物の生存にとって大きな障害は、水路を石やコンクリートで固められ、底泥が少なくなってしまうことにある。もう一つの原因としては、この動物が日本に入ってきてから既に半世紀を経過し、日本の適切な環境と豊富な食物に馴れ切ってしまったことによる繁殖力の衰えてしまったことに依るのだろう。帰化動物は放置されて一定の年代を経過すると周期的に増減し、最後に僅かの数となって、生態系の一員を占めることになるのである。

(埼玉大学名誉教授)

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

# 埼玉の小さな生き物たち

市川 和夫

## 埼玉の動物相

各種の動物が、北海道、東北を経て南進。日本海側から東進。九州、四国、紀伊半島を経て中部地方から北進。伊豆方面から北進してくる。

埼玉及び周辺の都県は、これらの動物の混生地帯になっていると思われ。実際に、秩父や奥武蔵に生活している小さな動物、すなわち昆虫類を観察すると、北方寒地や南方暖地を本拠としているものもかなり発見できる。

たとえば、伊豆地方以南に分布するとされるカザリツマキリアツバやウラギンヨトウという蛾が、秩山や比企の丘陵地帯で発見されるが、このような例は非常に多い。

## 埼玉の昆虫について

(低地(台地) 低平地の昆虫の特徴的なもの、珍しいものをあげると、ススキ草原ではギンイチモンジセセリ(蝶)、浦和市秋ヶ瀬など低湿地に生えるハンノキにつくミドリシジミ(蝶)、八潮市のヒヌマイドトンボ、蓮田市黒浜沼などのコフキトン

ボ、見沼などのヘイケボタルとヒメアカネ(とんぼ)などが健在で、蝶では久喜市、北本市で発見されたフシギキシタバが有名である。最近では川口と浦和の見沼たんぼでアカガネオサムシという甲虫が発見され話題となった。

いっぽう、この二〇一三〇年間に絶滅あるいは激減してしまったものも多い。畑作に適し、雑木林が豊富だった大宮台地は「県立自然学習公園」予定地の北本市石戸宿附近を残して殆んど都市化が進んでしまった。



その影響で姿を消した主な昆虫は、ミヤマセセリ、アカシジミ、オオムラサキなどいずれも雑木林の蝶たち。赤松林のハルゼミ、草地のクツワムシやウマオイ、水生昆虫のタガメ、ゲンゴロウ、ゲンジボタルなどなど書ききれない。しかし、歩き回ってみると、見沼、秋ヶ瀬、荒沢、高尾、権現堂堤など規模は小さいがかなり良い自然があるから、大切に保全したい。

(丘陵(浅い山地) JR八高線沿いの丘陵、西側の奥武蔵や秩父の山、多摩丘陵の飛地のような狭小丘陵は、都市の人達が訪れやすい豊かな自然環境で、ハイカーが年々多くなっている。しかし、交通の便が良く、造成が容易なことなどから、これらの緩やかな丘陵はゴルフ場建設の狙い撃ちにあっている。

この地域の山林は、現在、低平地で絶滅のうき目に合っている多くの昆虫や、山地性の小動物の生活圏である。なんとか現状に近い形で保全できないものだろうか。

五月になると、野山の天使と呼ぶにふさわしいウスバシロチョウが秩父盆地周辺や奥武蔵に大発生するが、数年前からは八高線以東の地に分布を広げている。最近ではムラサキシジ

ミヤウラギンシジミがふえており、コナラやクヌギの林にはウラナミアカシジミやオオミドリシジミなどきれいな蝶が乱舞している。ミヤマクワガタもいるし、化石昆虫といわれるムカシヤンマ、ムカシトンボの生息地もかなり多いことなどが特筆される。

武蔵嵐山の「オオムラサキの森」、寄居町の「トンボの国」、狭山丘陵の雑木林をそのまま「緑の森博物館」とする構想も動き出した。

(山地(亜高山帯) 雁坂峠や甲武信岳、十文字峠付近、それに県の「21世紀の森」保全構想のある中津川流域は、古い樹林が広がり、静かな山歩きを楽しめる。

この地域に小鳥やコウモリが多いのは、餌となる蛾などの昆虫が豊富だからである。また、寒かった時代の生き残りといわれる水生昆虫のトワタカワゲラ、斜面に住むガロアムシの生息地も多く、蝶ではキベリクテハ、エルクテハのように森林性の寒地の昆虫が多い。

昭和三〇年頃から盛んになった樹林の伐採によって、秩父の山は部分的に乾き気味になって来たので、徐々に草原性の昆虫が進出し始める傾向にあり、長野県や群馬、山梨両県

と共通種が見られるようになってきた。

(埼玉の昆虫の総数) 生息が確認されているのは、水生昆虫を含めて約六、〇〇〇種にのぼる。甲虫、蛾の各二、〇〇〇種、それについてハエ、アブの類が約一、〇〇〇種、セミ、カメムシ、ウンカの類が約五〇〇種、ハチ、トンボ、バッタ、蝶、水生昆虫、その他がそれぞれ一〇〇〜二〇〇種となっている。

まだよく調べられていない分野が明らかにすれば、一〇、〇〇〇種は越えるにちがいない。昆虫は種類が多ければかりでなく、個体数も多く、鳥、コウモリ、クモなど食虫性動物の餌として重要な存在でもある。

## 帰化昆虫について

(アメリカシロヒトリ) 昭和二〇年に東京で発見された蛾である。昭和二五年には川口市内に大発生し、桜やプラタナスなど街路樹や庭木の葉が幼虫に食べられて丸坊主になってしまった。その後日本各地に分布を広げ猛威をふるったが、さいわい森林地帯での被害は殆んどでない。政府をはじめ、地方自治体も個人も大量の殺虫剤を散布してきたが、ほかの昆虫も死滅してしまい、なかなか効果が上らない。いろいろな植

物が生えていて、いろいろな昆虫や鳥がいる雑木林は、薬剤を撒かなくてもこの虫の被害に遭わないのである。というのは、林に住むカメムシやアシナガバチ、各種の寄生蜂、クモの仲間、シジウカラなどの鳥たちが、有力な天敵としてアメリカシロヒトリの繁殖に圧力をかけているからである。

アメリカザリガニなどもそうだが、



ミヤマカワトンボ

外来の動物というとすぐに全滅させようとすることが多い。しかし、一時は大発生しても間もなく沈静化するものだ。それまでの数年を待つことの出来ない国民性がありはしないか、そのために無益な殺生や浪費をしているように思える。

(アオマツムシ) この数年、八月下旬から十月にかけて樹上で「リューリユ」と鳴く虫の声を耳にすることが

多くなった。夜間、車で走っている時でさえ聞えるほどの大きさだ。これはアオマツムシの雄の鳴き声で、鳴かない雌は十一月末まで生きている。

木の葉にとまっている姿は、大きさも形もマツムシと殆んど同じで、体色はうす緑色をしている。東南アジア原産で、明治になってから日本に侵入した虫である。埼玉では昭和二五年頃に国道17号沿いに戸田、川口、浦和などで発生し、その後一時衰退した。最近では川越、飯能方面から県内の低地、丘陵地の全域に分布を広げ、長静を経て秩父盆地にも入りこんでいる。

この虫は帰化昆虫すなわち外来の虫で広葉樹の葉を食べるのに、名前もともと日本にいた虫という印象を与えながら、今のところ駆除に乗り出す気配は見えない。

## 生態系のバランス

庭に一本のユズの木がある。初夏の柔らかな若葉にアケハチョウの幼虫がたくさん発生するが、我が家では葉が食べられるのを我慢して、そのままにしていた。

今年五月、窓から二メートルのところにあるこのユズの木に、二羽のヒヨドリが頻りに飛んで来ては幼虫

をくわえて行った。あの黄色い角から臭い匂いを放つのも虫である。僅か二日で幼虫は零匹となってしまった。

もうひとつ、家庭菜園のアオムシも殆んどいなくなりましたが、よく観察すると、これも育雛期の小鳥たちの餌として運ばれて行ったからだ。このアオムシは、昨年まではアシナガバチが肉団子にして、幼虫の餌にしていたものである。今年は、我が家の軒下に住むアシナガバチは、食糧不足でさぞ困ることであろう。

特定の動物だけを保護することは、生物界全体から見るとバランスを乱すことになるので、大層難しい問題を含んでいる。総ての野生生物を等しく大切にすることが、正しい自然保護であるといえよう。

## 著者プロフィール



昭和五年埼玉浦和市生まれ。浦和市立高校、浦和通信制高校、県立浦和高校教諭から県立教員養成所講師を経て、現在埼玉県立養護教諭養成所講師。

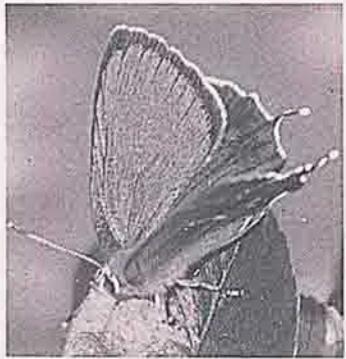
昭和三八年に埼玉昆虫協議会を創立。同会、および財団法人埼玉野鳥の会顧問、日本昆虫学会、日本蛾類学会会員、自然観察指導員、著書「埼玉の昆虫の世界」(目で見る生物学「農村生物」上(下))、「発生学実験」(いすれも其著)ほか論文等多数。

### 郷土を代表する蝶 ミドリシジミを追って

埼玉昆虫談話会の活動

世の中には物好きな人間がいて、一文の足しにもならぬことに血道をあげている。虫好きもその部類だろう。埼玉昆虫談話会はその虫好きの集まりだ。類は友を呼ぶというが、設立されてから二十五年、いつしか会員も百七十名に膨れあがった。一般に虫というとき、昆虫以外の小動物も指す。しかし虫好きが虫というとき、それは動物分類学上の昆虫に限定される。この昆虫類は地球上でもっとも繁栄している仲間、日本から約二万九千種が記録されている。しかし実際には、七万種から十萬種はいるとみなされる。まだ十分に調べられていないからだ。

埼玉県に住む動物の戸籍調査をまとめた「埼玉県動物誌」という報告がある。この中で昆虫は四千六十七種が記録されている。約十年前の報告書とはいえ、埼玉県内の調査がいかにおこなわれているかがわかる。この事実を、ちよつと地道に調査を進めれば、埼玉県未記録種の発見というような目覚ましい記録も、すぐに達成できることを意味する。こ



ミドリシジミ (萩原昇氏 撮影)

のよるな記録は、調査を進める上での何よりの力になるだろう。種の生息そのものが、まだよく調べられていないから、生活の状態と比べて、新発見の機会が随所に転がっている。こんなことが一文にもならないことに、情熱をかり立てられる原動力だろうか。アンリ・ファアブルがそうであったように、虫好きの趣味のあり方は孤獨でありがちであった。だがこのころ、集団での行動がふえている。時代の流れであろうか。

会として共同調査を行った地域に、所沢市三ヶ島地区と、北本市石戸宿とがある。所沢市三ヶ島は狭山丘陵の北西に位置する極めて良好な自然環境の地域だ。そこに早稲田大学所沢キャンパスが進出するというこ

なので、環境が破壊されぬ前にこの地域の調査をしておこう。それが地元の虫好きとしての責務であり、またそうすることが自然保護への道につながるかと判断したからだ。北本市石戸宿は大宮台地でもっともよく、自然環境が残存している地域だ。ここもまたレジャー指向の公園計画や北里研究所の進出計画があるという噂を聞く一方、県環境部から自然学習公園(仮称)の構想が打ち出された矢先であったので、会としての調査対象地域として、会員の共同調査を実施した。

この二地域の調査結果については、それぞれ一九八四年と一九八六年に報告書がまとめられた。この報告をまとめるまでもなく、「小さな生き物たち」は、それぞれの生き方で生きていく。目を凝らして見れば見ると、沢山の虫達に出会えるのだ。豊かな自然環境では、一握りの土の中にも何百という生命が息づいている。自然を改変し開発することは、この沢山の小さな生き物たちを聞かす。根こそぎ葬り去ることだ。多くの虫好きはそれがたまらない。たとえ葬り去られようとも、せめて生きていた明かしに、彼等の墓碑銘だ

けでも残しておきたい。墓碑銘として後世に伝えていくうち、ひよっとしたら、この自然開発万端の流れを、変える糸口になりはしないか、という淡い希望もある。小さな生き物に一流も二流もない。しかし、美しく、ほかの地域で見られないような生き物なら、絶対に滅亡させたくない。人情だろう。荒川の河川敷のハンノキ林をいろうとミドリシジミがその一つ。

ミドリシジミは日本全国に生息しているが、埼玉県のように都市近郊に多数生息しているところは珍しい。これを県の蝶にしたいかがである。———というところで、埼玉昆虫談話会では一般県民に働きかけていくことにした。すでに各二回の「知る集い」と「見る集い」を実施した。この運動の中でわかってきたことは、ミドリシジミを含んだハンノキ林の生態系は、埼玉県の低平地の原風景そのものであることだった。観文時代人もこの地を見たであろう。ミドリシジミ、増山正賢の「虫多帖」にも文化六年採集作図、武州岩付産蝶四図のうちに描かれている。国立博物館の所蔵になるが、当時の岩肌には豊富だったのであろう。(埼玉昆虫談話会 牧林 功)

### 本のひろば

埼玉の小さな生き物たち  
—昆虫—

子ども室ではよく見かけても、大人向けの本は、と言われると? 昆虫は不思議なテーマです。今回はちよつと専門的な図書も捜してみましよう。

#### 【埼玉の昆虫記】

埼玉蝶の世界 埼玉昆虫談話会編 埼玉新聞社 84 (全館)  
県内でもこんなに多くの種類の蝶が見られたのかと驚かされる。カラー写真を豊富に使った昆虫記。埼玉県トノボ観察記 新井裕 (熊谷市) 著・発行 82 (全館)  
トノボの生態観察記録と写真集。あまり難しくなく読めよう。  
雑木林の小さな仲間たち—狭山丘陵昆虫記 牧林功 (大宮市) 著 埼玉新聞社 85 (全館)  
環境保護問題から一躍有名になった狭山丘陵の昆虫記。連絡会議の活

動もエッセイ風に描かれている。狭山丘陵博物館 肥田塾孝司著 武蔵野郷土史刊行会 82 (全館)  
こちらは植物が中心の記載。  
狭山丘陵については、雑誌日本の生物 90・4 (熊・久) でも特集で取り上げられた。  
水明の彩り 熊谷・荒川流域にて 伊藤昭雄 (熊谷市) 撮影・発行 86 (浦・熊)  
個人による昆虫写真集。  
武蔵野昆虫記 石井悌著 三省堂 40 (浦・熊・久)  
全集日本動物誌10 (講談社 83) (全館) にも収録。武蔵野関係では最も古い昆虫記でしょうか。

#### 【埼玉の昆虫調査資料】

埼玉県動物誌 埼玉県動物誌編集委員会編 埼玉県教育委員会 78 (全館)  
埼玉県の昆虫を知るうえで重要な基礎的資料。昆虫に半分以上のページをさいている。  
日本の重要な昆虫類 南関東版 環境庁編 大蔵省印刷局 80 (全館)  
学術上重要な昆虫75種の生息状況保護の現状を調査。  
秩父武甲山総合調査報告書(上) 自然編 87 (全館)



石灰岩採石により変貌しつつある武甲山の自然を各方面より調査。調査体制の整備が早かった昆虫については、報告も行き届いている。  
荒川 自然編(荒川総合調査報告書 1) 埼玉県果実発行 87 (全館)  
荒川水系の総合調査。地形等が中心だが、昆虫もフォロー

戸田市動物誌 戸田市立郷土博物館編 89 (浦・熊・久)  
展示会用に作成した「戸田の動物第5回特別展」(戸田市立郷土博物館編著 89) (全館) も必見。  
久喜市の動・植物 I・II (久喜市史調査報告書) 久喜市史編さん室編 久喜市 85 (全館)

寄居町の自然(動物編) 寄居町史資料委員会町史編さん室編 寄居町教育委員会 81 (全館)  
(執筆) 膜翅類 南部敏明ほか  
この他にも市町村史の一部に記載がある(浦和市史 通史編1など) ものはあるが、この3市町の昆虫調査は秀逸。

この他にも、  
そうかの自然観察ガイド—身近な動物たち 埼玉県野鳥の会編 草加市 88 (全館)  
昆虫についての記録は少ないが、楽しく自然観察できるガイド。  
自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫編) 第2回 埼玉県環境庁編 80 (浦)  
身近な自然とのふれあい 第3回 身近な生きもの調査報告書 所沢市公害対策課自然保護係・所沢市身近な生きもの調査委員会 88 (浦)  
第1回は(浦・川)でも所蔵。  
武蔵野昆虫記 東京府土木部編 東京府 83 (浦)  
採集と観察 埼玉の動物・植物・鉱物(校外学習ガイドブック2) 埼玉県校外教育協会編 埼玉新聞社 63 (浦)  
などがある。

#### 【雑誌・年報】

埼玉生物 第28号ほか 埼玉県高等学校生物研究会 88 (全館)  
高校の先生による研究会年報。研究成果が発表される。  
寄せ蛾記 第44号ほか 埼玉昆虫談話会編 85 (浦)  
談話会の季刊紙。談話会の活動に

ついでには、「雑木林の小さな仲間たち」(前出)に詳しい。増補や別冊で研究紀要も出している。

【参考資料】

- 埼玉郷土辞典 自然編 埼玉新聞社 69(浦・熊・久)
- 埼玉の自然についての百科事典。昆虫類の項目も多い。
- 浦和の動物に関する文献について (浦和市史調査報告書17自然編別刷) 市川和夫著 浦和市総務部 市史編さん室 85(浦)

【埼玉の昆虫分類目録】

- 熊谷市産動物目録基礎資料(北埼玉地域研究センター年報別冊1) 寺山守著 立正大学北埼玉地域研究センター 82(浦・熊・川)
- 熊谷市で観察された動物の学名と観察場所を記録。
- この他に

埼玉県動物誌仮目録 第5集 埼玉県教育委員会編・発行 76(熊・川)

- 荒川本流河川敷の陸生動物目録 一六四年の調査 埼玉県民部県史編さん室編発行 85(全館)
- 秩父の蝶 小沢國平(熊谷市)著・発行 刊行年不明(熊)

【研究紀要など】

- 戸田市の蛾(研究紀要2) 市川和夫著 戸田市立郷土博物館 87(浦)
- 浦和市内のモンシロチョウ属2種の分布(浦和市史調査報告書17自然編別刷) 市川和夫著 浦和市総務部市史編さん室 85(浦)
- 河川の生物調査報告書(荒川水系における生物相と水質についてⅢ) 埼玉県公害センター 80(川)
- その他中川水系、入間川・新河岸川水系について。
- 埼玉県秩父地方のトンボ(採集と飼育36巻9号) 福嶋義一著 採集と飼育の会 74(浦)



【子ども向けの図書】

- トンボの楽園 杉村光俊文・写真あかね書房 86(全館)
- 世界ではじめてできた「トンボの楽園」のある高知が舞台。ちょう (みるすかん・かんじるすかん) 大島進一著 福音館書店 87(全館)

ばい。あなた、見分けられますか? 秘密の大島進一氏は埼玉在住。

- スーパースタービートルズ 海野和男著 日本テレビ 89(熊・川)
- バンドの話はなくて、副書名にある通り「世界のカブトムシクワガタムシ」の本。著者は昆虫写真家。昆虫記 今森光彦著 福音館書店 88(全館)

昆虫の写真歳時記。ふんだんに写真が使われている。もうちゅう カブトムシとそのなかまたち(みるすかん・かんじるすかん) 福音館書店編集部編 福音館書店 88(浦・熊・川)

写真担当は松本克臣・栗林慧。松本氏は埼玉県在住。昆虫かんさつ入門 上下(入門百科シリーズ)くらたみのる著 小学館 84(熊・久)

昆虫観察を実際に行ってみよう! 昆虫観察を具体的に解説。小動物の飼育方リスト 児童奉仕研修会・レファレンス分科会 84(浦・熊・川)

7~8月の主な催し物

映画会特集

- 県立浦和図書館
  - 7月26日(木) 10時・14時 「アンパンマンとばいきんまん」ほか
  - 8月2日(木) 10時・14時 「月夜に浮かぶ幻想の街」ほか
  - 8月9日(木) 10時・14時 「ヘンゼルとグレーテル」ほか
  - 8月16日(木) 10時・14時 「くまの子ウーフ」ほか
  - 8月23日(木) 10時・14時 「クマのプーさん プーさんと大あらし」ほか
- 県立熊谷図書館
  - 7月24日(火) 10時・14時 「宝島」
  - 7月25日(水) 10時・14時 「天空の城ラピュタ」
  - 7月26日(木) 10時・14時 「水垂るの墓」
  - 7月27日(金) 10時・14時 「モモ」
  - 8月10日(金) 14時
- 県立川越図書館
  - 7月27日(金) 10時・14時 「しまいババのモルテン」ほか
  - 8月3日(金) 10時・14時 「ひろしまのエノキ」ほか
  - 8月10日(金) 10時・14時 「魔法のシンフォニー」ほか
  - 8月17日(金) 10時・14時 「3丁目物語・夏」ほか
  - 8月24日(金) 10時・14時 「3丁目物語・秋」ほか
- 県立久喜図書館
  - 7月27日(金) 10時・14時 「風の谷のナウシカ」
  - 8月2日(木) 10時・14時 「アリババと40人の盗賊」
  - 8月16日(木) 10時・13時30分・15時 「化けくらべ」ほか
  - 8月24日(金) 10時・14時 「二十四の瞳」
  - 8月30日(木) 10時・13時30分・15時 「吉四六どん」ほか

※入場は無料です。詳細、この他の催し物等については、各館へおたずねください。

雑木林と 小さな虫たちの世界

オオムラサキの森活動センター 嵐山町の菅谷地区の雑木林には、今では見かけることの少なくなったオオムラサキをはじめ多くの昆虫たちが生息しています。町ではここを「オオムラサキの森」と名づけ活動センターを中心に、昆虫たちと共存し自然と調和する環境づくりを進めています。



オオムラサキの森活動センター

オオムラサキは、その名が示すように青紫色に輝く美しい翅が特徴でタテハチョウ科に属しています。日本の各地に広く分布していたことから九五年国蝶に指定されました。



オオムラサキ

かし埼玉県では都市化の影響などで生息地域が急速に失われてきています。「オオムラサキの森」には観察林や実験林が用意され、ログハウス風の活動センターでは、写真やスライドのほか標本の展示やビデオの上映が行なわれており、生態などを分かりやすく学ぶことができます。

- 所在地 嵐山町大字菅谷八二九一
- 電話 ○四九三六二一八四八五
- 交通機関 ○東武東上線武蔵嵐山駅下車徒歩15分
- 関越自動車道 東松山IC下車の後国道二五四号約10分
- 開館日 毎週日曜日
- (6月から8月までの3ヶ月間は月曜日を除く毎日開館)
- 開館時間 午前9時から午後5時まで

# “埼玉の小さな生き物たち” 観察地案内

## 〔山地～亜高山帯〕

- ①美の山公園
- ②武甲山
- ③天目山・仙元峠
- ④橋立・浦山溪谷
- ⑤白久・熊倉山
- ⑥三峰山・森溪峠
- ⑦中津川流域
- ⑧岡神山・酒滝
- ⑨八丁峠
- ⑩志賀坂峠・二子山
- ⑪城峰山
- ⑫三國峠
- ⑬十文字峠
- ⑭三宝山・甲武信岳
- ⑮輝坂峠・羅峠
- ⑯雲取山・白岩山

## 〔丘陵～低山地〕

- ①県立狭山自然公園
- ②狭山市橋荷山公園
- ③日高町市常田・日和田山
- ④毛呂山町鎌北湖
- ⑤越生町黒山三浦
- ⑥県立小川少年自然の家
- ⑦八丁湖・吉見百穴
- ⑧国営武蔵丘陵森林公園
- ⑨長寿(県立自然史博物館)
- ⑩長寿町宝登山
- ⑪神流湖・三波石夷
- ⑫鐘神堂山・円良田湖
- ⑬児玉町間瀬湖
- ⑭神川村金嶺神社

## 〔低地～台地〕

- ①八潮市潮止橋
- ②久伊豆神社
- ③幸手市権現堂堤
- ④渡良瀬川河川敷
- ⑤県立水産試験場
- ⑥県営水族館
- ⑦利根大堰・河川敷
- ⑧坂東大橋・河川敷
- ⑨さきたま古墳公園
- ⑩北本市石戸宿
- ⑪見沼たんぼ
- ⑫秩ヶ瀬自然公園
- ⑬三芳町多福寺
- ⑭新座市平林寺



## 各地区の特徴的な小さな生き物

	山地～亜高山帯	丘陵～低山地	低地～台地
鳥	ホシガラス、オオルリ、アカショウビシ	イカルチドリ、ササゴイ、セグロセキレイ	ヒクイナ、アマザキ、ゴイサギ、カイツブリ
魚	イワナ、ヤマメ、カワマス	カジカ、ウグイ、ヤマベ	ナマズ、ニゴイ、ムサシトミヨ
甲虫	ミヤマクワガタ、ルリボシカミキリ	ゲンジボタル、クワカミキリ、コハンミョウ	ヘイケボタル、オオイチモンジシマゲンゴロウ
蝶	キペリタテハ、エルタテハ	オオムラサキ、スミナガシ、ウスバシロチョウ	ギンイチモンジセセリ、ミドリシジミ
蛾	ムラサキシタバ、フジキオビ	アゲハモドキ、ニホンセセリモドキ	ハスオビアツバ、フシキキシタバ
トンボ	タカネトンボ、ミヤマサナエ、ムカシトンボ	ヤマサナエ、ムカシヤンマ	ナゴヤサナエ、アオヤンマ、ヒヌマイトトンボ
その他	トワダカワゲラ、エゾゼミ、チツチゼミ	キバネツノトンボ、ハルゼミ	トノサマバツク、クマコオロギ

### 編集後記

本格的な夏、夏休みの思い出に欠かすことのできないのが、昆虫など小さな生き物との出会いです。今も昔も、子供たちが虫好きであることに変わりはないでしょう。巻頭は、ザリガニ研究の権威として知られる須甲さんの玉稿。写真は学術的にも貴重なアメリカザリガニの雄姿。オスとメスの違いをご覧ください。主題は、蝶蛾の研究家として有名な市川さん。日本列島の四方から昆虫の導入する本県は、虫たちにとっても、大切な位置にあること

と分かりました。そんな本県で、昆虫たちの住みかを守ろうと活動している代表として、「埼玉昆虫研究会」と「オオムラサキの産活動センター」を紹介しました。埼玉を代表する蝶、ミドリシジミをはじめ、珍しい蝶や甲虫が多数展示してあるのが、シラサキ記念自然史博物館(浦和市代山一七二番地)電話〇四八八七八〇(五〇〇)です。この夏、図書館共々出かけて見ませんか。各図書館は、子供たちが身近な自然に親しみ、郷土の小さな生き物たちと語り合おうお手伝いもしています。御活用ください。